

～平成23年12月3日実施～

高齢者を地域全体で支えるとはどういうことか！？

いけ！ネット交流会

報告資料

平成24年2月

藤井寺市 いけ！ネット

■はじめに



今年で5年目の交流会を実施できたことは、参加者の皆さんを始め多くの介護・医療従事者の方や関係機関の方がひとりひとり「いけ！ネット」に積極的なご理解をいただいている証拠であると確信しております。交流会当日もお忙しい中80名の方がお越しいただきましたことにまず感謝申し上げます。

今年のテーマは「高齢者を地域全体で支えるとは！？」を掲げました。そもそも私たち「いけ！ネット」は専門職間ネットワークの強化を目指していますが、議論を重ねていく中で、「専門職のネットワークを強化できても高齢者が住み慣れた地域で暮らすことには限界がある。地域の力が必要である。」ということが度々挙げられるようになりました。これは平成24年度の介護保険法の改正でも、「地域包括ケアシステム」の構築が急務とされており私たちの議論と重なるものです。

ただ、私たち専門職は目の前の患者や利用者の支援に全力を尽くすことはイメージできても、地域に目を向けた議論は不慣れということもあり戸惑いがありました。そこで河内長野市で先駆的に活動されている石倉先生のお力をお借りし藤井寺市の地域包括ケアシステムのあり方を考える一歩としました。「高齢化がますます進む昨今では地域全体を視野に入れた支援は専門職として欠かせないものである」と、石倉先生のお言葉は改めて地域連携の重要性を確信した次第です。

最後に反省点として、グループディスカッションでは十分な時間が取れず消化不良のまま閉会となった方も数多くおられたことと思います。このことを反省材料とし次回の交流会は、よりよいものにしていく所存ですので、来年度のご参加も心からお待ちしております。

簡単な報告書ですが、皆さんの振り返り資料として活用いただければ幸いです。

“いけ！ネット”

医療・ケアマネネットワーク連絡会

会長 数尾 展

◆ 目 次 ◆

■概要	2
■開会	4
■活動報告	5
■講演	6
■グループディスカッション・懇親会	7
■交流会時アンケート集計報告	8

■概要

《対象》

藤井寺市介護保険事業者連絡協議会会員の居宅介護支援事業所
藤井寺市医師会会員
藤井寺市歯科医師会会員
藤井寺市薬剤師会会員
藤井寺市・羽曳野市内の医療ソーシャルワーカー
藤井寺市・羽曳野市内の訪問看護に従事している者
その他、いけ！ネット会長が認める者

《テーマ》

『高齢者を地域全体で支えるとはどういうことか！？』

《ねらい》

藤井寺市の地域包括ケアシステムを探る

《開催日時・場所》

開催日時：平成23年12月3日（土）午後2時～午後4時30分

開催場所：藤井寺市立福祉会館 講座室

《参加者数》

参加者総数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80名
【内訳】医師・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10名
 歯科医師・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3名
 薬剤師・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6名
 介護支援専門員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27名
 看護師（訪問看護師含）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18名
 医療ソーシャルワーカー（MSW）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6名
 行政職員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2名
 地域包括支援センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7名
 その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1名

《後援団体》

藤井寺市介護保険事業者連絡協議会

藤井寺市医師会

藤井寺市歯科医師会

藤井寺市薬剤師会

大阪府藤井寺保健所

藤井寺市

《次第》

座長：「いけ！ネット」会長

数尾 展

司会：青山病院MSW

竹内 啓二

1. 開会の辞 司会者

2. 挨拶

＜主催者挨拶＞

医療・ケアマネネットワーク連絡会「いけ！ネット」 会長 数尾 展

＜来賓挨拶＞

藤井寺市 市長 國下 和男 様

藤井寺市医師会（医療職代表） 会長 白江 淳郎 様

藤井寺市介護保険事業者連絡協議会 会長 木島 真也 様

＜来賓紹介＞

藤井寺市歯科医師会 会長 古金谷信行 様

藤井寺市薬剤師会 会長 加藤 雅弘 様

3. 活動報告

〔共有促進チーム〕

ケアプランセンターみささぎ

木島 真也（介護支援専門員）

〔啓発チーム〕

ハートケア藤井寺

岩木 育子（介護支援専門員）

〔研修チーム〕

パレットケアプランセンター藤井寺

川勝 深雪（介護支援専門員）

〔ホスピスケア研究会・大阪〕

小山 富美子 様（看護師）

橋口 由起子 様（看護師）

4. 講演

演題 「高齢者を地域全体で支えるとはどういうことか!？」

講師 河内長野市医師会（前）在宅医療部会長

石倉医院 院長

石倉 保彦 様

5. グループディスカッション・懇談会

6. アンケート及び事務連絡

7. 閉会の辞

医療・ケアマネネットワーク連絡会「いけ！ネット」 会長 数尾 展

■開会

この交流会は、今年で5回目を数えることになりましたが、継続的に行っていることは、企画はもちろん準備・後片付けも全て「いけ！ネット」メンバーで取り組んでいることです。これは、医療・介護従事者が自分たちの力で連携を促進しより良いサービスを展開したいその表れです。来賓の挨拶からも、ますます「いけ！ネット」に対する期待を聞き取ることができました。

【準備】



開会30分前！準備も多職種連携！

初めての司会担当の竹内MSW。最後まで立派に務めることができました。→



優しい笑顔でお迎えする受付嬢

【挨拶】



いけ！ネット
会長 数尾 展



藤井寺市長
國下 和男 様



藤井寺市医師会
会長 白江 淳郎 様



藤井寺市介護保険事業者連絡協議会
会長 木島 真也 様



歯科医師会会長 古金谷 信行 様 薬剤師会会長 加藤 雅弘 様
も来賓としてお越しいただきました。ありがとうございました。

■活動報告

今年度からチームを編成し直し、新たな3つのチームに分かれ協議してきたことなどを報告しました。“研修チーム”の報告では、うまく行った事例、うまくいかなかった事例の分析をしていること。“啓発チーム”では、昨年度作成したPRビデオを福祉委員会で啓発した経過と反応の報告。“共有促進チーム”では、市内2か所へ出前講座を行ったこと。在宅生活情報シート（入院時にケアマネから病院へ情報提供を行うシート。）を作成したことの報告がありました。

また、今年度は当時者やその家族を支援する一歩として「ホスピスケア研究会・大阪」と共催でおこなった「がんを知って歩む会」を開催しました。「ホスピスケア研究会・大阪」の小山様と橋口様（両氏とも看護師）から報告があり、参加された患者とその家族から「前向きになることができた。」などの感想があったとの報告がありました。



←【共有促進チーム】これまで作り上げてきた「連携体制図」「支援マップ」「連携シート」を各専門職に広く知ってもらうことがこれから必要であり、市内病院へ出前講座を行ったり、ケアマネ勉強会へ再周知を行っていることなどを報告。（木島氏）



↑【啓発チーム】福祉委員会を中心にPRビデオや介護保険の説明を通して顔なじみの関係になった結果、地域もネットワークの大切さを重要視していることを肌で感じることができ、今後ますます専門職と地域のネットワークが必要であると提言。（岩木氏）



←【研修チーム】上手くいった事例、いかなかった事例を分析している中で、5つの心構えが必要であると報告①他職種の立場になって考える②他職種が期待することは何か考える③職種の殻に閉じこもるな④困難時にはもう一度踏み込んでみる⑤チームプレイでゴールは一つ。（川勝氏）



←【がんを知って歩む会（ホスピスケア研究会・大阪）】この会は、がんを持ちながら前向きに生活していく姿勢を強めることを目指し、今までは専門病院を中心に展開してきたのを、身近な地域でもニーズがあると今年から藤井寺市で行ったなどの経緯説明と、実際に参加された方の感想として「同じ立場の人と話したい方や前向きになりたい」など聞くことができ、改めて地域で開催する重要性和、メンタル面を専門職がサポートすることで治療に対する不安は緩和できるなどの報告がありました。（左から小山様・橋口様）

■講演

今年度お招きした石倉先生は、河内長野市で長く地域包括ケアシステムの構築に向けて力を注いでこられました。講演では、構築に向けて医師会での取り組み、寸劇での「ケアカンファレンス」、「アンケート調査」結果の報告、「地域ケア・包括ケア」、地域包括ケアに必要な理念を分かりやすく講演していただきました。

特に地域包括ケアシステムを歯車として例えて説明され、1つの機関が動けば全体が動き出すような仕組みを作ること、歯車に錆があればそれを掃除するような働きかけが必要であることを提唱されました。

【石倉先生が提唱する地域包括ケアを支える3本柱】

- 1、高齢者・がん患者・認知症患者・障害者等々及び、その家族に対してその「心」に思いを馳せ、患者・利用者に耳を傾けることの必要性（心のケア）
- 2、職種の枠にこだわることなく、患者・利用者が何を求めているかに思いを巡らす（市民目線）
- 3、病気を診（看）るのでなく、その病気を持った「人」を診（看）る＝QOL

地域ケアシステムにおける連携とは

【演題】 高齢者を地域全体で支えるとはどういうことか！？
【講師】 河内長野市医師会（前）在宅医療部会長
石倉医院 院長 石倉保彦 先生

歯車のように、一つの機関や職種などが動けば全体が動くような仕組みを目指していることや、行政が行うことを縦糸とし、医療介護のネットワークや住民ネットワークは横糸として例え、この3つを包括して高齢者を地域全体で支える本当のネットワークであり、地域包括ケアシステムであることなどをご講演いただきました。

最後に参加者に対し、「各々の職種の殻に閉じこもるのではなく、何ができるか、何を成すべきかを考えつつ、多職種協働の精神で実践することが重要である。」とアドバイスをいただきました。

■グループディスカッション・懇親会

今回のグループディスカッションでは、石倉先生の講演を聴講し、自身でできること（やってみたいこと）、実際にやっていくうえでの課題を共有し、手がかりを探ることを目的としましたが、十分な時間がなく半ば頓挫してしまい次回以降の課題となりました。

その中でも、多職種参加できるようなカンファレンスをしていくには「事前準備の徹底」や「カンファレンスの意義を周知していくことが必要」などが挙げられる一方で、「藤井寺市で働く医療・介護の従事者の高いモチベーションであれば、これらの課題も乗り越えられる」という言葉を石倉先生から総括の中で頂いたこともあって、積極的な意見が飛び交う有意義なグループディスカッションとなりました。

【グループディスカッション】



【発表】



全体の様子

* 閉会後も、参加者間で名刺交換をするなどネットワークキングは継続されました。

■アンケート集計

★字句の整理はいたしました。いただいた内容はすべて記載しております。

- 当日参加者数 80名
- 回答者数 64名
- 回収率 80%

問1：あなたの主な所属をお聞かせ下さい。

NO	項 目	人	%
1	居宅介護支援事業所	16	25
2	サービス提供事業所	3	4.7
3	診療所	10	15.6
4	病院	9	14.1
5	歯科医院	2	3.1
6	行政	1	1.6
7	薬局	6	9.3
8	地域包括支援センター	11	17.2
9	その他	5	7.8
0	無記入	1	1.6
	合 計	64	100

問2：あなたの主たる職種をお聞かせ下さい。

NO	項 目	人	%
1	介護支援専門員	21	32.8
2	医師	10	15.6
3	歯科医師	2	3.1
4	薬剤師	6	9.4
5	看護師	12	18.8
6	保健師	2	3.1
7	MSW	5	7.8
8	社会福祉士	4	6.3
9	その他	1	1.6
0	無記入	1	1.6
	合 計	64	100.1

問3：いけ！ネットの活動報告について

NO	項 目	人	%
1	とても参考になった	43	67.2
2	参考になった	20	31.3
3	あまり参考にならなかった	0	0
4	無記入	1	1.6
	合 計	64	100.1

(自由記述)

- ・大変システムティックに活動されている事がわかりました。(看護師)
- ・いけ！ネットに初めて参加させて頂きました。チームが編成されていて活動内容も充実していて素晴らしいと思いました。(看護師)
- ・活発な活動をされている事に驚きました。(医師)
- ・市民への啓発は大切だと思います。(医師)
- ・システムの確立は、ほぼ順調と思われるが、今後のPR及び各部門の意識向上が必要かと。(医師)
- ・昨年より活動が充実し嬉しく思いました。(保健師)
- ・ぜひ当市でのこれからの活動の参考にさせていただきたいと思います(社会福祉士)
- ・入院の際、病院へ在宅情報シートの提供は、有効ではないのかな～と思いました。(介護支援専門員)
- ・地域で話し合いの場が持たれ、連絡連携の取れる道筋ができるのは在宅生活を送る患者様が安楽に過ごされる事につながっていくと感じました。(看護師)
- ・現場で一緒に活動することで変化してきたことを感じた。一つの想いに向かってチームで活動できていることがすごい！(社会福祉士)
- ・年々いけ！ネット活動が地域に広がってきているように感じた。(社会福祉士)
- ・ネットワークがしっかりと構築でき、又、新しいとり組みもそれ故にスムーズにとり込め、とり組める様子が見えるようでした。(看護師)
- ・毎年毎年いけ！ネットの輪が広がっていることが実感できた。(介護支援専門員)

問4：講演について

NO	項目	人	%
1	とても共感できた	41	64.1
2	共感できた	22	34.4
3	あまり共感できなかった	0	0
4	無記入	1	1.6
	合計	64	100.1

(自由記述)

- ・在宅で介護を続ける上では各職種での連携がとても重要である事を再認識できた。
(介護支援専門員)
- ・担当者会議の大切さをもっと色々な方に知ってもらいたいと思った。(介護支援専門員)
- ・実際に河内長野市で活動していたので納得する事ばかりでした。(介護支援専門員)
- ・連携の大切さは解っているつもりでしたが、今回の講演を拝聴して歯車が沢山ありどこも大切であり、もっと色々な所と連携を取らないといけないと思った。(介護支援専門員)
- ・ケアカンファレンスが全ての基盤であるという視点に目からうろこでした。とても大切な事だと思いました。(看護師)
- ・ケアカンファレンスに対する考えには共感できた。他職種との協働は在宅医にとっては重要な事。そのツールとしては、他職種とカンファレンスするのが最も効果的と考える。(医師)
- ・最後に締めくくられた3本柱はうっかり忘れてしまいそうになるが、大切な事だと思いました。(看護師)
- ・実現に向けて少し手を伸ばさず歯車にならないといけないなと思いました。(MSW)
- ・カンファレンスの重要性を再認識しました。(薬剤師)
- ・大変ご苦労されていた事が、よく分かりました。(歯科医師)
- ・石倉先生の努力が良く分かりました。どこに行っても行政との摩擦があるものです。特に「人」を大事にすることを強調していただきとても共感できた。現実ケアマネの中でも患者を見に来ないケアマネもあり、人を見ていない現実もある。
(MSW)
- ・システムの先駆的存在の意義は大変大きい。(医師)
- ・疾患をみるのではなく、人を看る。行政の中で働いていると忘れそうになりますが、人のケアを大切にしていきたいと思いました。又、連携は車輪の様なものだと思います。連携する人がひいてしまうとうまく連携できないし、少し手を伸

ばす関係が良いのかと思いました。(保健師)

- ・ 藤井寺市では既に試行錯誤しておられるようなことで、(自身の市は)少し遅れていると感じた。(薬剤師)
- ・ 多職種協働の考え方、互いの職種を理解してすすめる事の大切さが理解できた。共通のテーマについて、又利用者、患者を中心に考えることで連携は十分可能。(薬剤師)
- ・ なかなか実感として理解しにくい「地域包括ケアシステム」について分り易くご説明していただき具体的なイメージとして理解できました。(社会福祉士)
- ・ Dr がしっかり在宅医療の事を本当に良く考えてくださっている事が良く分かりました。患者さん自身を『見る』『看る』『診る』事の大事さ、連携シートを使用しての情報交換がどんどんすすめられると、多くの患者さんが在宅で過ごせる助けになると感じました。(看護師)
- ・ 様々なデータをを用いた説明で、振り返りや課題が見付かるような内容であった。Drが必要と言ってくれればとヤル気が出てきます。現場から声をあげることの大切さが理解できた。(社会福祉士)
- ・ 役所ではできない地域包括ケアシムを作っていく重要性を知った。(社会福祉士)
- ・ ケアカンファレンスの位置付けが非常に重層的なものであることが、自覚できた。個別のニーズ、ケースが地域のニーズやケアのエビデンスになっている事が理解できます。こころのケアというところで。(看護師)
- ・ 地域包括ケアシステムについて本当に分かり易く、先生の熱い想いが強く伝わってきました。藤井寺でより多くの歯車がスムーズに回る事ができるよう自分にできる事をしていきたいと痛感しました。(介護支援専門員)

問5：藤井寺市の地域との連携（現状）について

NO	項 目	人	%
1	よく理解できた	32	50
2	理解できた	20	31.3
3	あまり分からなかった	2	3.1
4	無記入	10	15.6
	合 計	64	100

(自由記述)

- ・ 最近では医療、介護連携シートを使うことも多くなり、以前よりもやりとりがスムーズになっているように感じる。(介護支援専門員)

- ・病院にいると全く”見てない”のがわかりました参考にしたいと思います。(看護師)
- ・顔の見える連携(多職種協働)を目指して頑張っていきたいと思います。(薬剤師)
- ・人口、面積、規模的に非常に向いていると思われる。但しお互いが更に寄り合っていかなければ・・・(医師)
- ・他からみてうらやましいと思われるみたいで藤井寺のこういう連携カンファレンスは尾道までいなくても、どんどん発信していけばいいと思う。(薬剤師)
- ・”連携が難しい”と言われるがなぜ難しいのか。なぜ参加しないのか。その理由を検証することが必要ではないか？(exDr、HPは敷居が高いと言われるが、なぜそう感じるのか。経験などをふまえて)(MSW)
- ・やはりお医者様の協力が課題であり、その点は当市でも同じだと感じました。(社会福祉士)
- ・誰かが(システム作りを)してくれると思ったらだめだと思った。まず自分が勇気を持って間口を広げていく事が大切。(介護支援専門員)
- ・連携ツールが増えてきたこともあり連携も少しはスムーズになってきた。(社会福祉士)
- ・やはり、ケアの成功は医療との連携が多くあると感じます。(看護師)
- ・時間がなく説明を聞けなかったことが残念でした。(介護支援専門員)

問6：「グループディスカッション・懇親会」について

NO	項目	人	%
1	とても有意義だった	36	56.3
2	有意義だった	21	32.8
3	あまり有意義でなかった	1	1.6
4	無記入	6	9.4
	合計	64	100.1

(自由記述)

- ・とても楽しかったです。(介護支援専門員)
- ・医師からの助言が大変心強く感じました。(介護支援専門員)
- ・医師、ケアマネ、看護、MSW各立場からのお話が聞けて温度差を感じるが、思いは同じであることが分かった。(介護支援専門員)

- ・時間が短い為、もう少し時間を取って色々と意見交換できたら良かった。他のグループの意見を聞いたのは良かった。(介護支援専門員)
- ・医療との連携をもっとより良いものにする為に、積極的になろうと思いました。(介護支援専門員)
- ・時間が短すぎた。15分で8名の討論はできない。(医師)
- ・時間が短かった。(看護師)
- ・どの職種もそれぞれに想う事があるのが面白かった。それぞれに事情があり、実現可能なこともあれば、難しい事もある。そのような話も聞いたのは有意義であった。(MSW)
- ・他職種の方の考えも分かったのでとても良かったです。(薬剤師)
- ・50代の地域への関わり方について宿題ができた(薬剤師)
- ・各職種の悩みが分かり、かつ連携を深める事により、よりスムーズにケア、医療が行えるのではないか。(歯科医師)
- ・話し合える場はありそうで、なかなか無いのが現実。いいたい事が言える場や機会はとても重要。(MSW)
- ・もう少し時間があれば、もっと深められたのにとと思いました。(保健師)
- ・私自身、在宅やこのような活動に関わっていないが、逆にディスカッションする事で、多くの方の生の声を聞け、その悩み、問題点までを知る事ができ、有意義であった。具体的に業務は異なるが、一般論化すると問題も簡単に見えてくる為、必ず解決できると思える。(薬剤師)
- ・各グループの発表が良かった。(社会福祉士)
- ・できれば、もう少し時間があれば更に有意義なお話が出来たのではないかと思います。(社会福祉士)
- ・時間が短くて皆さんと会話できる時間が短かった。(介護支援専門員)
- ・色んな意見が聞けて情報交換ができたと思いますが、時間が短くてバタバタ話をしてしまったのでまとまりがなくなってしまうと申し訳なかったです。(看護師)
- ・勇気を持って飛び込んでいく決意ができました。(社会福祉士)
- ・専門職種から意見をもらい連携について、それぞれの立場で悩んでいることが分かった。(社会福祉士)
- ・困難事例と取り掛かりにくい事例は医療に結びついていない事例がいかに多いか。医療の連携の重要性に気付かれている点がスゴイ！と思いました。(看護師)
- ・時間が短く、自己紹介と感想だけで終わってしまったが皆の熱い想いを感じ、とても嬉しく思いました。(介護支援専門員)

●自由記入欄

- ・堺市でもいけ！ネットのような活動を各区レベルで実施していきたいと思います。
(介護支援専門員)
- ・つつい目先の仕事に振り回されがちだが、今回の交流会に参加させてもらい、本来行うべき仕事の方向性を再認識でき、本当に良かったです。上手く歯車が回り、安心して生活できるようにするカンファレンスをどうおこなうかによって利用者の今後が決まる。ケアマネの仕事の重要性も改めて感じました。(介護支援専門員)
- ・交流会はとても楽しかったです。今回のシートによる課題についての話し合いは難しく、全員での茶話会っぽくなってしまったが、とても有意義な時間でした。(介護支援専門員)
- ・もう少し、自由に話せる時間が欲しい。(介護支援専門員)
- ・他職種のかたとの交流もあり、色々な想いを持って（悩みや不安など）仕事しているのだと言う事も解りましたし、これから連携を取っていく仲間として顔見知りになれる場を与えられ良かったと思います。(看護師)
- ・初めて「いけ！ネット」に参加しました。どんな活動をしているのか良く分かりこれからの訪看の仕事に役立てていきたいと思いました。(看護師)
- ・現状を振り替える良い機会になりました。(看護師)
- ・数尾医師から連絡を頂き参加させてもらいました。積極的に多職種の方が取り組んでおられ、素晴らしいと思いました。富田林ではまだまだ取り組んでいないように思います。当院では極力訪看とケアマネ等連絡を取り合うようにしています。
(医師)
- ・初めての参加で十分には理解できなかったのですが、これからどんどん参加し理解を深め自分自身の仕事に取り入れるまでになりたいと思いました。(MSW)
- ・色々な勉強会に参加したいので、ぜひ案内して欲しいです。(薬剤師)
- ・他市の取り組み方法も聞けて参考になりました。藤井寺市の取り組み方法を参考にさせていただきたいと思います。(歯科医師)
- ・毎年参加させて頂いています。色々な試みを聞かせていただき、有難うございます。(医師)
- ・会長ご苦労さまです。(医師)
- ・とても楽しかったです。みんなの意見が聞けてとても参考になりました。(保健師)
- ・今後藤井寺いけ！ネットに協力できればと考える。患者、利用者の QOL 向上に何かできればと思います。(薬剤師)

- ・ ケアカンファレンスも大切ですが、我が国の死亡の中で肺炎で亡くなる方も多いと思います。中では特に病態も有りますが、誤嚥性肺炎が原因と考えられる事もある。その予防には口腔ケアが重要であり、いけ！ネットのメンバーに歯科衛生士の参加を望みます。(歯科医師)
- ・ Dr 等他職種の気持を知る事ができて良かった。積極的に連携シートを利用し、連絡していこうと思った。(介護支援専門員)
- ・ 本日は参加でき大変勉強になりました「いけ！ネット」の取り組みは他市で同じような課題に取り組んでいるものにとっても良い手本であり目標でも有るので今後とも頑張ってください。期待しております。(社会福祉士)
- ・ 交流会、議題とは反れた内容だったが、非常に活発な意見交換ができたので有意義だった。(保健師)
- ・ いつも痛感するのは、リハビリ職種の参加者率の低さ。唯一のリハビリ職種として他療法士の参加を促すよう頑張っていきたいと思います。(作業療法士)
- ・ 地域で多くの方が在宅に向け協力体制をもちたいと感じていることが分かり嬉しく思いました。私もこれからより一層連携をしっかりと取れる仕事をしていきたいと感じました。(看護師)
- ・ 様々な機関や立場の専門職がこれだけ集まることに、意識の高さを感じた。(社会福祉士)
- ・ 時間が少し足りなかったようですが、皆様の活発な意見を聞いて良かったです。又、参加させて頂けたらと思っております。(看護師)

いけ！ネット 交流会

高齢者を地域全体で 支えるとはどういうことか？

参加費：無料

日時 平成23年12月3日(土)
午後2時 ~ 午後4時30分

場所 藤井寺市立福社会館 2階 講座室

演題 『高齢者を地域全体で支えるとはどういうことか？』

講師 * 河内長野市医師会(前)在宅医療部会長
* 石倉医院 院長

石倉 保彦 先生

★石倉先生は、専門職間連携の重要性だけでなく、地域全体で高齢者を支える仕組みづくり（地域包括ケア）の必要性を長く強調されています。
交流会等の活動では、仕掛けから演出・講演まで多岐にわたるご活躍をされ、医療介護・行政・市民の輪を広げておられます。

★ご講演後、グループディスカッションや懇親会を予定しております。

対象者 ・藤井寺市医師会・歯科医師会・薬剤師会 各会員
・藤井寺市介護保険事業者連絡協議会会員の介護支援専門員
・藤井寺市及び羽曳野市のMSW・訪問看護に従事しているもの など

申込み・問合せ先

・いけ！ネット事務局：藤井寺市地域包括支援センター
TEL 072-937-2641 FAX 072-937-2643

★別紙参加申込書に記入のうえ申し込んでください。

★締切日：平成23年11月18日(金)

主催：医療・ケアマネネットワーク連絡会（事務局 藤井寺市地域包括支援センター）

後援：藤井寺市医師会 藤井寺市歯科医師会 藤井寺市薬剤師会 藤井寺市 大阪府藤井寺保健所
藤井寺市介護保険事業者連絡協議会

平成23年度 いけ！ネットメンバー

平成23年11月現在

	役職	氏名	所属機関	選出母体など
1	会長	数尾 展	数尾診療所	医師会
2		園部 鳴海	園部医院	
3		白川 親	白川医院	
4		時吉 浩司	ときよしくりニック	
5		縄田 浩行	ナワタクリニック	
6		中本 康朗	中本クリニック	
7		兵埜 芳夫	兵野歯科診療所	歯科医師会
8	副会長	北島 信彦	青山病院 《歯科》	
9		古金谷 信行	古金谷歯科医院	
10		福永 敬三	ハーブ薬局	薬剤師会
11		武村 稔	仲全快堂薬局	
12		山本 宏一	薬剤師	
13		竹内 啓二	青山病院 《MSW》	病院
14		市川 幸世	市立藤井寺市民病院 《MSW》	
15		吉田 久美	市立藤井寺市民病院	
16	副会長	木島 真也	ケアプランセンターみささぎ	介護保険事業者連絡協議会
17		森 弘美	藤井寺市訪問看護ステーション	
18		河相 淳	ケアプランセンターどうみょうじ高殿苑	
19		黒崎 喜之	介護事業所可児居宅介護支援事業所	
20		杉本 雅子	ひかりケアプランセンター	
21		岩木 育子	ハートケア藤井寺	
22		川勝 深雪	パレットケアプランセンター藤井寺	
23		山中 久美	ケアプランセンター介護の家	
24		田口 美樹	あおやま病院ケアプランセンター	
25		岩崎 千佳	メイケア・リハビリ訪問看護ステーション	
26		高山 暁美	藤井寺保健所	行政
27		清水 哲夫	高齢介護課	
28	事務局	前原 由幸	藤井寺市地域包括支援センター	介護保険事業者連絡協議会
29		川村 恵子	藤井寺市地域包括支援センター	
30		田中 光子	藤井寺市地域包括支援センター	
31		西 淳子	藤井寺市地域包括支援センター	

～平成23年12月3日実施～

いけ！ネット交流会 報告資料

いけ！ネット事務局：藤井寺市地域包括支援センター

大阪府藤井寺市北岡1丁目2番8号 市立福社会館内

電話：072-937-2641 FAX：072-937-2643

2012年2月発行